

【保健体育・中3・「球技 バレーボール」】 ①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) ・役割に応じたボール操作や連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。
- (思考力・判断力・表現力等) ・自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫すると共に、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
- (学びに向かう力、人間性等) ・自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようしたり、互いに助け合い教え合ったりしようすることができる。

ICT活用のポイント

チーム課題、めあて、アドバイス、学習の振り返り等をICT端末を活用して共通理解したり時間短縮を図ったりする

- ・ 準備運動
- ・ 学習内容の確認

- ・ 個人のめあてを共有する
- ・ チームの課題を確認する

- ・ 課題解決に向けて練習
- ・ 練習を生かした試合をする

- ・ 本時のめあて、チームの課題解決に対する練習、ゲームでの動きを振り返る

事例の概要

役割に応じたボール操作や連携した動きを身につけてゲームを楽しむ中で、自己やチームの課題を発見し、積極的に課題を解決する。

【事例におけるICT活用の場面①】

学習支援ソフトを用いて前時に記録した自己やチームの課題を振り返り、本時における練習やゲームの作戦をグループ内で確認することで、生徒のやるべき活動が明確になる。

【事例におけるICT活用の場面②】

学習支援ソフトを用いて作成されたワークシートに振り返りを記入し、グループ内で全員の意見を文字や動画で共有することで、練習やゲームを多面的に振り返れるようにする。

【保健体育・中3・「球技 バレーボール」】 ②

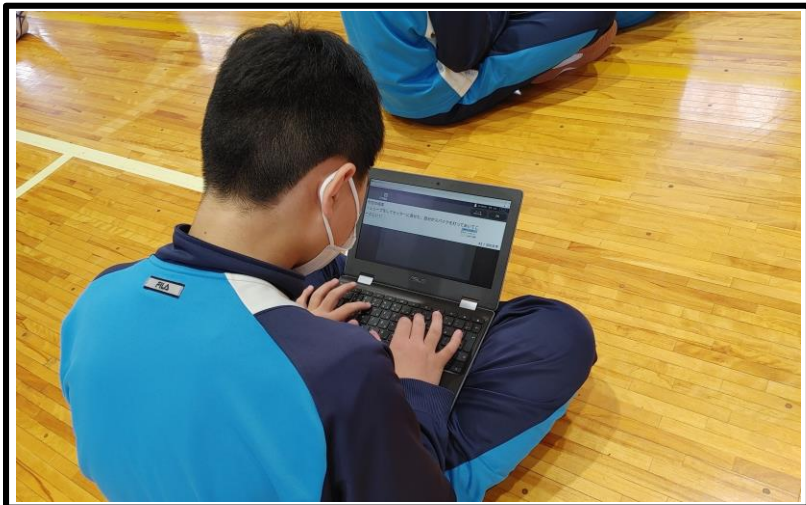
【事例におけるICT活用の場面①】



○学習支援ソフトを活用し、前時のチームの課題と作戦をグループで共有することにより、話合いの時間を短縮し、すぐに練習に取り組むことで、生徒の活動時間を十分確保することができた。

○各チームの作戦と課題をチームリーダーから教師のICT端末に提出させた。教師はICT端末上で各チームの練習内容を把握することができ、各チームの練習内容が課題や作戦に効果的な内容になっているかチェックでき、チームや各生徒に適切なアドバイスをすることができた。

【事例におけるICT活用の場面②】



○文章を書くことが苦手な生徒には、振り返りを動画で記録させたことによって、それぞれが考えを言語化し、チームで共有することができた。また、反省点をどのように改善すればよいか、動作を撮影して共有したことにより、生徒は具体的なイメージをもつことができた。

○本時のまとめの場面では、それぞれのチームの作戦や練習について振り返った内容を学習支援ソフトを活用してチームで共有することでチームや自分の課題を明らかにできた。そして、生徒は次時のチームの作戦を立てることができた。